

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2017年
10月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

あなたは「何のために」生きますか？

～年間 300 回の講演会をする講師に学ぶ～



「この人の話聞いたことある？なかったらぜひ聞いてみて」

数年前、友人から一枚のCDを渡され、その内容に一気に心を引きつけられたことがありました。そのCDに録音されていたのは写真の人物、**中村文昭**さんの講演会です。

彼は三重県でクロフネカンパニーという会社を経営する傍ら、ひきこもりの方を募集して農業生産を行う「耕せにつぽん」を企画したり、国内外で年間 300 本を超える講演をされている非常にパワフルな方です。

実は先日、滋賀で講演会があるから一緒にどう？と友人に誘われたので、参加してきました。今回の講演会は「**ぜひ教育者の方、子を持つ親に聞いて頂きたい**」というテーマで、非常に考えさせられる、勉強になる内容でした。

講演会の内容を全てはまとめられませんが、特に心に残った内容をまとめてみようと思います。

中村さんを「話し上手」にさせたのはお母さん

年間 300 講演をこなす中村さんは本当に話し上手で、2 時間の講演会はあっという間に終わります。伝えたいことを「上手に伝える力」はどうやって身についたのでしょうか？

中村さんは三重県の山奥で生まれ、少年時代は毎日自然を相手に遊んでいました。完成品として用意されたおもちゃやゲームで遊ぶのではなく、自分で遊びを作り出していたのです。その経験は今の仕事で、新しい仕事を作っていける発想力の元になっていると語られています。

そして母親からは英才教育を受けました。英才教育とは学校の勉強をカリカリさせられるとか、〇〇高校に受かるのよ～！ということではなく、遊びを終えて帰った中村少年に、「お帰り！今日はどうだった？」と質問し、今日あったことを一から十まで話してもらうことなのです。

その時は、家事をしていても手を止めて、必ず面と向かって話を聞いてくれたそうです。オーバーリアクションで「すごいね～！それで、それで？そこからどうしたの？」と聞き上手なお母さんのお陰で、中村少年はどんどん話をするのが上手くなっていきました。

中村さんは少年時代を思い返し、

「あの頃はこれだけ話を聞いてくれるお母さんを喜ばせたくて、魚とりでも必死だった。遊びでも新しい遊びを開発しようと一生懸命だった。その原動力は『お母ちゃんをもっと喜ばせたい、お母ちゃんの笑顔がもっと見たい』だけだった。

お母ちゃんは『あんたはすごい！天才や！あんたなら何でもできる』とよく言ってくれた。だから、自分はなんでもできると本気で思っていた」

と言います。この少年時代があったから、今は仕事で人を喜ばせることが自分の喜びになっていると言います。

頼まれごととは試されごと

この言葉は私も一番好きな言葉で、自分の行動指針にもなっています。中村さんが若かりし頃、ある集まりに参加した時のことです。

「君、悪いが水を買ってきてくれないか？」とある人に頼まれます。

普通、誰でもできることを頼まれたら、「めんどくさいな〜」「なんで僕に頼むかな〜」と嫌々取り組んでしまいます。それでも頼まれた仕事を終われば、頼んだ人は「ありがとう」と言ってくれるでしょう。しかし、それだけです。

中村さんの場合は、

「はは〜ん、あなた私を試してますね〜。いいでしょう、期待以上でお応えしましょう」

と考えます。水を頼まれた時も、全速力でダッシュして買いに行き、ゼーゼー言いながら汗だくで帰ってきました。すると水を頼んだ人は、

「ただ水を買ってきてくれと頼んだだけなのにそこまでしてくれたのか！？人は誰も見ていないような些細な仕事をする時に、その人の真価が問われる。小さな仕事をきっちりとできる人間は信頼できる。君、僕のところで働かないか！？」

と、スカウトされたいらしいのです。(実は水を頼んだ方は会社の経営者だったのですね)

織田信長の草履持ちであった「猿」と呼ばれていた男は、ある寒い夜、信長の草履を懐で温めて渡しました。その心遣いに信長は彼に一目を置くようになります。後にその男は豊臣秀吉と名乗り、天下統一を果たす・・・という話は有名ですね。

これもただ単に「草履を渡す」のではなく、寒いから温めるというちょっとした気遣いが、秀吉の印象を大きく変えた『頼まれごととは試されごと』の例ではないでしょうか。

やはり大きなことを成し遂げる人は、ちょっとした気遣いができる人なのでしょう。

あなたは何のために仕事をしますか？

中村さんは「人を喜ばせる為に」仕事をしていると言います。

何の仕事も細かく見ていくと「作業」の連続なのです。なにも考えず、ただ作業をしていけばそれは仕事ではなく作業をしているだけです。しかし、「人を喜ばせる為に」という思いが入ると、それは作業ではなく「仕事」に変わります。

仕事とは結局「人対人」です。

その人を喜ばせることができたなら、喜んだ人が次なる喜ぶ人を連れてきてくれる。その繰り返しが「繁盛」という結果に繋がってくるのです。

お金で人を動かしても、お金がなくなれば周りの人は一瞬で居なくなります。しかし人徳・人間力で人を動かせたなら、周りから人が居なくなることはありません。

以前のMAC NEWSで「本当に頭の良い人ってどんな人ですか？」という号があったのを覚えていますか？（今年の3月号でした）

その答えは、「他人を幸せにできる人」。見事に中村さんの話と繋がっていると感じました。さて、今の自分は人を喜ばせる仕事ができているでしょうか。

ところで、子どもの前で仕事の愚痴などを言っていないですか？

子どもにとって親の言うことは絶大な影響があります。

親が家庭で会社や仕事、同僚の愚痴を言っていると、子どもは聞いていないようでもちゃんと聞いています。

大好きな親が仕事に対して愚痴を言っていると、子どもは将来のことを考えた時に「どうせ頑張ってもつまらない未来が待っている」と思い、真剣に自分の将来と向き合えなくなります。家庭での会話には細心の注意を払いましょう・・・。

ラグビーでニュージーランド 1 位を狙う学校の練習とは？

中村さんには 3 人のお子さんがいらっしゃいますが、そのうちの 1 人はニュージーランドの高校へ留学し、ラグビー部に入っていました。その学校はニュージーランドで 1 位（全国優勝）を目指せるほどの強豪校です。

ご存じの通り、ニュージーランドはラグビー王国です。そのニュージーランドで 1 位だとしたら、それは間違いなく「世界一」を意味します。

そんな強豪校の練習はさぞすさまじい厳しさ、すさまじい練習量だろう・・・。

と予想をしていましたが、なんと全体練習は火曜・金曜の週 2 回、2 時間だけ。

それ以外の日は自主練で「自分には何が足りないか、チームには何が必要か」を自分なりに考え、自らメニューを組み立て、練習に取り組むのです。

限られた練習時間で最高の結果が出せるように、必死で考えて行動に移していく。それを高いレベルで実行できた者がレギュラーとなり、活躍し、栄冠を手に入れることができるでしょう。

日本のような、決まったメニューをひたすら繰り返す長時間練習には、「自ら考える」という一番重要な要素が足りません。繰り返しである程度の基礎力は身につくでしょうが、それ以上のレベルになると限界がくるのです。

しかし、これは部活で無くとも勉強、仕事にも同じことが言えるのではないのでしょうか？何も考えずに周りがしている当たり前な方法・やり方に取り組んでいては、その次の発想が浮かんでできません。

今は何でもネットで「一般的な正解」を検索できる時代ですが、日頃からとにかく粘り強く考え、自分なりの正解を追い求めることができる人が、これからの時代を引っ張っていけるリーダーになるのではないのでしょうか。

※ご興味ある方は「中村文昭」で検索してみてください。

『めんどくさい〜』って言っていない？

みなさんは人に何かを頼まれた時、「めんどくさい〜」と
言っていないですか？
実はその頼み事、あなたは試されているのですよ？

少しの考え方の違いが大きな差に

人に何かを頼まれた時、誰もが「めんどくさい〜」「なんで私に頼む
かな〜」とおもってしまいますよね。でも嫌々する行動だと、頼まれた
最低限のことしかできません。

何かを頼まれた時には「よし！期待以上で応えよう」と
おもって
ください。ほとんどの人が嫌々する頼まれごとをニコニコ期待以上で
応えよう
と行動する人がいたら、当然ニコニコの方が印象が良いですね？
そうすると、同じことをするのでも人に与える印象が大きく変わります。

勉強やクラブも同じことが言えます。難しい勉強やしんどい練習は
一生懸命
と取り組もうが、手を抜こうが難しさやしんどさには変わりはない
のです。それなら前向きに積極的に取り組んだ方が周りの印象も良くな
るし、なにより自分の力になりますよね。

どんな場面でも、まずは「めんどくさい〜」を
言わないように心がけましょう。



偉人の名言

「頼まれごととは、試されごと」

中村文昭 ～年間 300 講演を行う講演家～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。